

小林秀雄著『本居宣長』：三十四章主題『神代の巻』を本當に知る(轉義)とは、言葉で作られた『物(神代/神)』に、人麿が感知してゐた處の「言靈(即ち、神代/神)」の、そつくりそのままの力に、捕らへられる事(合体)であらう》その「關係論」的纏め。

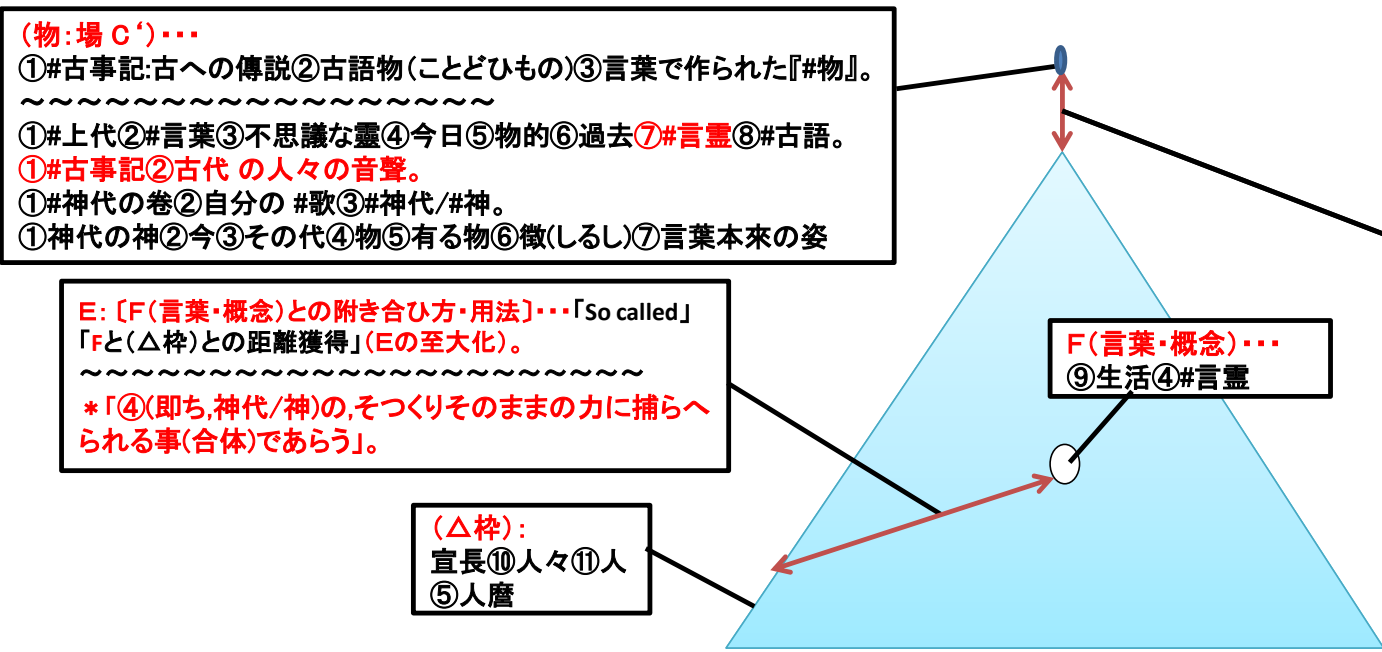
①#古事記:古への傳説②古語物(ことどひもの)③言葉で作られた『#物』⇒からの關係:①に關する②が提供してゐる,③の感知が,どんなに豊かな経験であつたか。②が提供してゐる,③(言靈:#神代/#神)を明らめんとすると,學問は,物には,おのおのその性質情狀が有る,に繋がつた⇒宣長。

①#上代②#言葉③不思議な靈④今日⑤物的⑥過去⑦#言靈⑧#古語⇒からの關係:①の⑩は,②には⑪を動かす③が宿つてゐる事を信じてゐた.これを⑥の迷信として笑ひ去る事は出来ない.⑦(例:#神代/#神)といふ⑧は⇒⑨生活⇒⑨の中に織り込まれた(合体)言葉⇒宣長⑩人々⑪人

①#古事記②古代の人々の音聲⇒からの關係:③が,①から直に聞いた②は,まさに,④に聞えたるまま,言葉で作られた[物(言靈:#神代/#神)],即ち[古への傳説に關する,#古語物(ことどひもの=②)].換言すると①に關する②(つまり性質情狀)への感知⇒③宣長④耳

①#神代の巻②自分の #歌③#神代/#神⇒からの關係:①を本當に知る(轉義)とは,例へば⑤が②に詠みこんだ,③とかいふ言葉(言葉で作られた『#物』)に,⑤が感知してゐた⇒「④#言靈」⇒④(即ち,神代/神)の,そつくりそのままの力に捕らへられる事(合体)であらう⇒⑤#人麿

①神代の神②今③その代④物⑤有る物⑥徴(しるし)⑦言葉本來の姿⇒からの關係:宣長によれば,[①は,②こそ目に見え給はね,③には目に見えたる(轉義)④なり]となる.ここで明確なのは,⑤(神)へのしつかりした關心.⑥としての言葉(神)が⑦であり力(言靈)であるといふ事。



からの關係(D1の至大化)

*「①に關する②が提供してゐる,③の感知が,どんなに豊かな経験であつたか。②が提供してゐる,③を明らめんとすると,學問は,物には,おのおのその性質情狀が有る,に繋がつた」。

*「①の⑩は,②には⑪を動かす③が宿つてゐる事を信じてゐた.これを⑥の迷信として笑ひ去る事は出来ない.⑦(例:#神代/#神)といふ⑧は」。

*「③が,①から直に聞いた②は,まさに,④に聞えたるまま,言葉で作られた[物],即ち[古への傳説に關する,#古語物(ことどひもの=②)].換言すると①に關する②(つまり性質情狀)への感知」。

*「①を本當に知る(轉義)とは,例へば⑤が②に詠みこんだ,③とかいふ言葉(言葉で作られた『#物』)に,⑤が感知してゐた」。

*「宣長によれば,[①は,②こそ目に見え給はね,③には目に見えたる(轉義)④なり]となる.ここで明確なのは,⑤(神)へのしつかりした關心.⑥としての言葉(神)が⑦であり力(言靈)であるといふ事」。